

衣のNGO

ふるぎふゆぐをさいかい  
**JFSA**  
ゆたかばつらしきささくる  
せかいのきずとさをかんかふる

NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会  
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10  
TEL/FAX:043-234-1206  
E-mail [jfsa@f3.dion.ne.jp](mailto:jfsa@f3.dion.ne.jp)  
URL <https://jfsa.jpn.org>

会報65号 2024年9月



PJ Cはついに2022年カラチの古着マーケットで倉庫を借りました。それはマーケットの中で事業を行なうための拠点であり、他の業者との対等な交渉を可能にしています（2~4P 「P&J カンパニーの設立から現在まで」より）



JFSA 会報  
バックナンバー



JFSA  
ホームページ



JFSA  
フェイスブック



JFSA  
インスタグラム

JFSAの連帯事業のパートナー、P & Jカンパニー(以下PJ)の代表アブドゥル・カユーム氏(47)に、アル・カイルとの出会いからPJを設立し現在に至るまでの話を聞きました。

### 故郷を離れカラチへ

(依知川)まずはあなたの故郷からカラチへ移り住んだ経緯を教えてください。

(カユーム氏)私の故郷はカラチから1500キロ程離れたKPK(カイバルパクトウンクワ)州の山岳地帯のケート村で、バラコトという街から30分ほどドライブで険しい山道を登った所にあります。私以外の兄弟は学校を中退して皆肉体労働に従事しましたが、私

は小さい頃から体が細く、母には「お前は勉強して教師になったらどうか」と言われていました。私はバラコトの高校を卒業後、カレッジへ進学したのですが、通学は片道12キロを半分は徒歩2時間、半分は乗合の軽自動車で30分かけて通いました。私の家は大変貧しく外食するお金がなかったので、昼休みは友達とは離れた場所ですら一人で過ごしていました。カレッジへは6ヶ月通いましたが通学があまりにも辛く、私は単身カラチへ友人を頼り移り住む事にしました。

(依知川)カラチでの暮らしはどのようなものでしたか？

(カユーム氏)カラチのカレッジへ2年生から編入したのですが、住まいは15〜20名の親戚の男達が2部屋に暮らしている所へ同居させてもらいました。彼らは建築現場の仕事を求め、同郷から出稼ぎに来ていました。年少者で唯一学校へ通っている私は、家事をしたり、皆の食費などお金の管理をしたりしていました。カレッジに通いながら、建築現場で測量の仕事を覚え、その後大学4年生の頃に仕事でアル・カイルの教室の工事に関わったのがムザヒル校長との出会いです。そして当時カラチに来ていたJFSAの西村さん(故人 JFSA設立メンバー)と何度か会う中で「古着販売事業を進めるために是非一緒に働いてほしい」と説得され、アル・カイルで学校の仕事と、学校を支

援するための古着販売の仕事に携わることになったのです。その後2005年に、パキスタン北部の故郷では大地震がおこり7万人以上が亡くなったのですが、アル・カイルとJFSAは協力して被災地の復興活動を行いました。



カユーム氏(右)と生前の西村事務局(中央)  
2008年 アル・カイルアカデミーで

### AKBGからPJへ

(依知川)古着販売事業にはどのように関わってきたのですか？

(カユーム氏)AKBG(アル・カイル・ビジネス・グループ)はアル・カイルを支援することが目的の会社で、私はそこで25年間事務局として働いてきました。



カユーム氏の故郷ケート村への道

しかし私以外のメンバーは他に仕事を持っていたため、古着販売の仕事に専念することは難しく、私自身も学校の仕事と兼務していたため、古着のマーケットの中に入れない状態が続いていました。その結果、価格交渉の力を持つ事ができず、日本から輸入した古着を販売する事業を成長させる事ができませんでした。そのような状況を打開するため、私たちはJFSAと相談し、教育活動と事業活動を明確に分ける形で新たにPJCを2020年に設立したのです。当初は代表者の私一人で、少しずつ学校の仕事を減らして古着販売の事業に専念する体制を作りました。そして新会社として日本からコンテナ2本を輸入販売した頃、パキスタンの経済状況の悪化により政府が輸入禁止措置をとったのです。

### パキスタン・タイでの古着販売と今後の展望

(カユーム氏)パキスタンへ輸入ができない状況で、私たちはタイで古着販売事業を行なうパキスタン人の友人に相談し、協力を得られる事になりました。以降、タイでは彼の会社WASとPJC、そしてJFSA、グリーンコープが協力して販売事業を進めています。私たちはパキスタンとタイでの販売経験を重ね、両国の需要に合わせて新たな輸入品目リストを作成しました。タイではぬいぐるみやアクセサリーの輸入販売も新たに開始しています。

PJCはついに2022年カラチの古着マーケットで倉庫を借りました。それはマーケットの中で事業を行なうための拠点であり、他の業者との対等な交渉を可能にしています。



タイのWASの倉庫  
カユーム氏(奥)とWASのアリ氏

### 今後への思い

(依知川) PJCはその倉庫を拠点に具体的にどのような活動をしているのですか？

(カユーム氏)JFSAやグリーンコープから輸入するコンテナは、基本的にこれまで同様に古着業者のニアーズ氏にコンテナごと売却していますが、一部の毛布などは私たちの倉庫にも置いてあります。私の取引業者が毛布を見て大量に購入したいという場合はニアーズ氏の倉庫へ案内するのです。そうすることで私はそれぞれの品目の相場を直接知る事ができます。倉庫を持ったことで、ニアーズ氏との間には良い意味での緊張関係と協力関係を作ることができています。



古着業者のニアーズ氏

またPJCはJFSAからの注文に応じてヴィンテージの古着やカーペットをパキスタンのマーケットで仕入れたり、リメイク品を製作したりして日本へ輸出しています。また同様にタイの古着業者にも品物を輸出しています。他にもアフリカやミャンマー、韓国など各国の業者と繋がりが広がっています。中でもカーペットはカラチの工房で作られているのですが、通常、作り手にはとても低い賃金しか払われず、次世代の担い手が育っていません。私たちは作り手から直接買い取ることで彼らの暮らしを支えたいと考えています。古着等のパキスタンへの輸入は今後も再び禁止されることが考えられます。これからは更に輸出事業に力を入れ、輸入と輸出を両立させたいと考えています。



カラチのカーペット工房 手織りをする職人

(依知川) PJCでは何人働いているのですか？

(カユーム氏)現在、アサドとザヒッドという男性2名がアル・カイルの仕事と兼務する形で働いています。アサドは主に商品の仕入れ、ザヒッドはコンテナの輸出入や銀行の手続きなどに携わっています。彼らには私の指示を待つのではなく、まずは自分で考えるように伝えていきます。2回失敗しても3回目に成功すればよいのです。当然プレッシャーもありますが、仕事を通してしっかり学んでほしいのです。また私はPJCの活動をアル・カイルのスタッフや生徒、卒業生にも見てほしいと思っています。貧しい人々が現状を我慢するだけではなく、その先の道を探して見つけてほしいのです。将来的に何かを始めたいと考える人には、会社として協力をしたいと考えています。このような話をすると、私はいつもJFSAの西村さん(前出)を思い出します。カラチで西村さんはいつも汚れた服を着て、貧しい人と一緒に地べたに座っていました。そしていつも「他の人の自立を支えるために仕事をしよう」と言っていました。



スラムにある職人の家を訪ねたときの  
カユーム氏(中央)と生前の西村事務局(右)

2010年8月

### PJCのスタッフ

アサド・アリ氏(32) \*下の写真右側

私はアル・カイルアカデミーで12年働いてきました。カユーム氏とは長い付き合いで、彼は私や私の家族の事をいつも心配してくれています。今はPJCにも携わっており、特にヴィンテージの古着に興味があります。今後も仕事を通して様々な事を学び、会社が成長することに貢献したいです。またカユーム氏は会社内で上下関係を作っておらず、それはとても大切だと考えています。

ザヒッド・ワジッド氏(36) \*下の写真左側

私は3〜4歳でアル・カイルアカデミー本校の幼児クラスに入学しました。その後、アル・カイルカレッジへ一期生として進学し、卒業後はカラチ大学へ進学しました。学生時代からアル・カイルで仕事を始め、会計や総務で働いてきました。私が学校で働くようになり妹達も学校に行かせることができ家族も喜んでいます。今はカユーム氏の会社でも働くことで学校の支援にも繋がることでできるとも嬉しいです。

PJCからJFSAに輸出するラグのペール



PJCの倉庫

右からアサド・アリ氏 カユーム氏 ザヒッド・ワジッド氏



# 〔アル・カイルアカデミー近況報告〕

海外事業担当事務局

依知川 守

これまでもご報告している通り、パキスタンでは電気代や食料代など物価が高騰しており、人々の暮らしは大変厳しい状況です。

## 第4分校の建設

公立学校の跡地を借りて運営している第5分校が満員のため建設している第4分校(三階建て)ですが、工事は着々と進められており、来年1月には開校できる見込みです。



## セントラルキッチン建設

既に建物は完成、後はガスの工事が完了すれば始動される予定です。セントラルキッチンのスタッフは8人の予定で、現在の本校の給食室から3〜4人が移動し、他のメンバーは新たに雇用する計画です。今後このキッチンでは下記の通り、各分校の給食が作られる予定です。



第2分校(市のゴミ捨て場にある分校) ↓週6日

第3分校 ↓週2日

第6分校 ↓週2日

第8分校 ↓週2日

これまでの本校の給食室では、今後も2人体制で本校のみの給食を週6日作ります(40人の生徒と35人のスタッフの分)

## カレッジについて

今年は90名が卒業して、うち20名が大学へ進学しました。その数は年々増えており、アル・カイルがカレッジの優秀な生徒5〜10名に奨学金を出しています。卒業時点では20名が大学へ進学しましたが、卒業後に数年働いてお金を貯めてから再び進学する生徒もいるそうです。

## ITインスティテュート(情報技術学院)について

正式にドナーが決まり着工、来年1月の完成を目指しています。カラチでは、就職に直結するため、年々ITの学校のニーズが高まっており、アル・カイルとしては、アル・カイルや他校の貧しい生徒を受け入れる考えです。具体的には、3ヶ月のコースを年間4回設けて、延べ



完成イメージ画像

1500〜2000名の学生を受け入れる計画です。

対象となるのは少なくともマトリック(10年生)を卒業した生徒となります。

## テコンドーその他のスポーツ

アル・カイルは特にこの1〜2年、スポーツの授業に力を入れていきます。生徒達や彼らを指導する先生達にとっても、彼らの成長のためにスポーツは大切だと考えています。パキスタンでは大きな私立校ではスポーツの授業がありますが、公立学校では一般的ではありません。スポーツの授業がある事で、生徒たちはより学校を楽しんでいるように思います。



P & Jカンパニーの事業進捗確認

P & Jカンパニー(以下PJ C)の2023年7月1日～2024年6月30日の事業について、PJ Cカユーム氏とJFSA事務局で確認しました。従来からのコンテナ輸入事業に加えて、輸出事業の規模が拡大し、事業の柱が2本立てとなりました。

○コンテナ輸入事業 JFSAと福岡のグリーンコープファイバリーサイクルセンターからパキスタン向けとタイ向けを合わせて計5本のコンテナを輸入。他の海外事業者からの輸入も模索しており、ダイナミックな事業拡大の可能性を感じました。

○輸出事業 PJ Cがパキスタンで仕入れたラグや古着をJFSAに輸出。JFSAは仕入額の3割増しで購入し店舗で販売。当初はラグ類がメインでしたが、現在は古着も含めて複数の仕入れ先を確保し、輸出货量も順調に伸びています。JFSAでの販売を促進させることがPJ Cの収益にもつながる仕組みが作られてきました。

○アル・カイルアカデミーへの寄付 PJ Cは事業で得た利益の内、次年度の事業計画等を勘案し、一定の割合をアル・カイルアカデミーに寄附します。この年度では580万ルピー(概算)の損益となり、310万ルピーを寄附しました(損益の約53%)。

(\*1ルピーは0.52円 9月5日時点)

新規アイテムぬいぐるみ、アクセサリー

新たに回収品目に加えたぬいぐるみとアクセサリーは順調に集まっており、9月にはタイに向けたコンテナで本格的に輸出をする計画です。

「バンコクのぬいぐるみ屋さん」

商業エリアにあるショッピングモールで、中古のぬいぐるみ専門店を視察。どの店もとても状態が良く、「中古のぬいぐるみ」というよりは「セレクトされたぬいぐるみ」という印象でした。お客さんは外国人観光客とタイ人両方が来るそうです。ドイツニーのキャラクターが一番人気で、日本のアニメのキャラクター(ポケモン、スーパーマリオ、ドラえもん等)も人気があり品揃えが豊富でした。価格はサイズやキャラクターによりますが、小50～100パーツ、中200～350パーツ、大800～パーツ程でした。全体的に価格設定の高いショッピングモール内の店舗ですが、予想していたよりも高い価格で売られていると感じました。7/5時点 1パーツ4.4円。他の市内のマーケットでは、状態が良くないものや有名なキャラクター以外のものもあり、比較的価格で売られていました。

(\*1パーツは4.4円 7月5日時点)

「ぬいぐるみはどこから来ているの?」

タイ・カンボジア国境の街アランヤプラテートには巨大な市場「ロンクルアマーケット」があり、多くの古着卸業者が軒を連ねていますが、ここにぬいぐるみの卸売

店もあります。中古のぬいぐるみはアメリカから輸入されるものが最も多く、その他日本や中国からも輸入されています。バンコク市内で販売されるぬいぐるみもここで仕入れられている小売業者が多いそうです。卸売店ではサイズ分けされたぬいぐるみが大きな袋に入れられていて、価格は1キロあたり60～90パーツ程、1個あたりは15パーツ程でした。汚れがあるものは洗濯し、破れなどあれば補修もしています。グレードの高いものはバンコク等の都市で高値で売られ、低いものは地方都市やカンボジアに売られていくそうです。



アランヤプラテートのぬいぐるみの卸売店  
店先では女性が補修をしていた

「JFSAのぬいぐるみと今後」

今回、タイでは日本のぬいぐるみは需要があり、価格も利益が見込める水準と確認できました。JFSAで回収されたぬいぐるみはバンコク市内で見た商品と比較しても、状態が良く、人気のキャラクターも多くあり、今後の販売に期待が持てました。ぬいぐるみは、新規回



バンコク市内のマーケット  
アクセサリーの店を見る大橋事務局

まずは9月に送り出すコンテナでJFSAのぬいぐるみとアクセサリーが良い評価を得て利益に繋がることを願いつつ、現地からフィードバックを受け、今後の回収や選別に活かしていきます。

バンコク市内では中古アクセサリーを販売する店は、マーケットや露店、ショッピングモールなど至る所にあります。市内のマーケットでは低価格の物から天然石やシルバーの物などがあり、20〜200バーツ程で売られています。ショッピングモールではより高価格のものもありました。今回、サンプルとしてJFSAで回収したアクセサリーを持参しており、カユーム氏が小売店を回って現地調査を続けます。

### 「中古アクセサリー」

## コンテナ送り出し・到着報告

国内事業担当事務局 入江 賢治



# 第86回コンテナ送り出し・到着報告 パキスタン

2024年6月20日積み込み（積み込み重量：23,862KG） 6月26日：横浜港出港

8月7日パキスタンカラチ港到着 8月27日：古着卸売業者ニアーズ氏の倉庫に荷下ろし



第86回コンテナ積み込み終了！

送り出しの日程調整をし始めた5月末頃、急にコンテナのブッキングが取りづらくなり海上運賃も急上昇（2倍以上）していると通関業者から連絡がありました。要因は複数絡み合っているようですが、主には中国経済の内需が先細りしているため、海外向けの輸出を加速させたことで、コンテナが中国に集中して不足状態となり、運賃上昇に繋がったと見られています。6月に入ってからも見通しが立たない状況でしたが、ピンポイントで空きが出たと連絡があり、幸いブッキングを確保することができました。運賃は前回1,550ドル（2024年2月）でしたが、今回は4,000ドルに上がりました。

直前の呼びかけにもかかわらず、積み込みには千葉ダルク、あうん、オイシックス・ラ・大地、パルシステム千葉組合員、個人の方など約30名のボランティア協力がありました。

パキスタンに到着したコンテナは、P&Jカンパニーから古着卸売業者ニアーズ氏に1KG当たり225ルピーで販売され、売上は536万8,950ルピーでした。コンテナ輸入に掛かった経費402万197ルピーを差し引くと、粗利は134万8,753ルピー（70万1,3519円 \*9/5時点：1ルピー：0.52円）でした。P&Jカンパニーのカユーム氏からは「今回、海上運賃が大幅に値上がりしましたが、ニアーズ氏と価格交渉し、利益を出すことに繋がられてよかった」と聞きました。



荷下ろしをする学校職員のザヒッドさん（右側）はP&Jカンパニーの仕事もしている



ペールを運ぶ荷役労働者  
重さはひとつ50キロ



メヘンディを描く少女

フォト  
ギャラリー

سجانا

サジャーナー  
飾る



デコバスを飾るパネルを作る職人たち



民族衣装の胸元に刺繍をする



カラチの街を走るデコバス

「働いてみてはどうですか？」

東葛センター担当事務局 田邊 航太郎

2023年10月から事務局として働き始めて丁度1年になる古田君(27歳)と、2024年4月から働き始めて半年になる知念さん(19歳)話を聞いてみました。

まず先輩の古田君は、事務局になる約1年半前からフルタイムのアルバイトとして働いていました。前職はアパレルの販売員として働いており、経験もあるため店舗『kapre(カプレ)』業務の全般を担当しています。

Q・なんで事務局になろうと思ったんですか？

A・アルバイト(非正規)ではなく、安定した正職員(正想)になりたかったからです。また、普段かかわっている業務に責任をもって臨みたいと思っていたからです。

Q・一年やってみてどうですか？

A・会議への参加や、タイへの出張で輸出先の現場を見たり買付作業をしたりする中で、見える部



店舗全般担当の古田君。より良いお店にできるよう日々奮闘中です！

分が広がりました。多くの人のつながりが大事なんだと感じました。事務局になる前のイメージと違ったことが多く、意識が変わりました。

Q・今後したいことなどはありますか？

A・9月に予定していたパキスタン派遣が中止(パキスタンでの事件により警戒が高まったため)になったので、機会を見て早く行きたいです。より全体を見ることで理解が深められることを期待しています。

続いて知念さんです。彼女は2024年3月に高校を卒業し、4月から働いています。古田君と同じ店舗担当ですが、裾上げやちよつとしたお直しなどにも少しずつ取り組んでいます。

Q・なんでうちで働こうと思ったんですか？

A・もともと古着を着ることが好きなのと、一枚ごとに前の持ち主がいるという背景が面白くて、それに関わる仕事をしたいと思っていました。就活で情報を集めた中で、JFSAは支援という側面もあることを知って興味を持ち、応募しました。

Q・ご両親は心配していませんか？

A・自分が支援活動をしていることなどを説明して、賛成してもらいました。

Q・働いてみてどうですか？

A・楽しくやれています。ただ、接客をするうえでお客さんの意図を汲み取ることが難しいと感じています。いろいろ勉強して身につけたいと思

っています。何かから手をつけていいのかわからないところもあり、少しもどかしいです。

Q・携わりたい業務などはありますか？

A・裁縫やお直し作業がやりたいです。



社会人1年目の知念さん。新たに始まった長い旅路を楽しく過ごせるよう願っています！

『kapre』に訪れる同年代のお客さんとつながれるよう、2人に特に頑張ってもらいたいと思います。ご来店の際はぜひお声掛けください。

## 「いちばん最初に来たいお店」

国内事業担当事務局 大橋 紀子

今、千葉センター古着ショップチャルカバザールでは、店内を大きく模様替えしています。現在は在庫置場として使っている場所も、一部店舗として拡張を予定しています。目的は、これまでよりいっそう、お客さんに買い物を楽しんでもらえる場を作るためです。

古着の輸出先がパキスタンのみではなく、タイも加わったこと、カユーム氏がP&Jカンパニーを立ち上げことは、JFSAにとつてとても大きな転換期でした(2/4p「P&Jカンパニー報告」参照)これまでは、女性物や冬物衣類は、パキスタンでの販売価格が安かったため、できる限り国内で販売をする努力をしてきました。

店内には、ギッシリと商品が掛かったハンガーラックが、びっしりと並んでいる状態でした。その中から掘り出し物を探すのを楽しみに来てくださるお客さんも多くいましたが、初めて来る方などからは、「量が多すぎてどこから見てもいいのかわからないですね」、「慣れていないと、この中から探すのは大変ですね」という声もありました。

パキスタンとタイ、それぞれの場で利益が出る品目を振り分けて送れるようになったことはとても大きなことです。この先はさらにそれぞれに輸出する全体量を増やすことが、PJC

の利益を増やすことにつながり、アル・カイールアカデミーの支援へとつながります。そのことはお店にとつても大きな転換期で、これまでの、販売できる状態のものはお店に並べ、量をたくさん陳列することでお客さんに買ってもらう、という体制にはピリオドを打ち、必要な量だけ販売用として確保し、できる限り輸出量を増やすという体制に移る必要があります。これまでについているお客さんが離れないかという心配もあります。そこはお客さんにとつてマイナスに映らないようにすることが、私たちの腕の見せ所だと思っています。

先日、常連のお客さんで長袖のブラウスを3枚買って下さった方がいました。海外旅行が趣味で色々な所に行かれていて、長袖ブラウスは、虫対策、紫外線対策、寒さ対策など、一番重宝する衣類だそうです。その方から、「デパートやショッピングモールでブラウスを買おうと思ったら、何店舗もお店を見て回っても、気に入ったものが1着見つかるかどうかというくらいでしょ。でも、この店(チャルカバザール)に来れば、一回で3着も見つかったから、やっぱり最初にここに来ちゃうのよね」と、嬉しい言葉をいただきました。まさにその通りで、まずは欲しいものが買える場、そして楽しみな

が欲しいものを探してもらえる場を、これまでよりいっそう意識して作っていくことが、この先に目指すお店作りです。

柏店k a p r e のショップ担当スタッフとも定期的にミーティングを行ない、接客や、陳列、商品数、商品セレクト、SNSの活用など、様々な事柄について共有や相談、アドバイスをもらい、一緒にお店作りをしています。欲しいものがある時に、一番最初に立ち寄っていただけのお店を目指して、まずは、9月中旬に模様替えを一旦完了できるように計画して進めています。お近くの方はぜひ遊びにいらしてください!! 遠方の方も大歓迎です!!



レディース売り場2階  
レトロコーナー



P & Jカンパニーから仕入れた  
ラグや生地類のコーナー  
改装後には場所を広く取り、商品  
数も増やす予定です!

私が参加した8月24日の23区南生活クラブ生協主催「30周年記念マルシェ」と、9月8日の生活クラブ埼玉主催「再エネ・省エネフェア」は、暑い日だったにも関わらず、たくさんの方が回収の荷物を持ち込んでくれました。両日とも、乗り入れたハイエースの8割程度が埋まるほどの量を回収することが出来ました。

私がJFSAの職員になったのは2020年。コロナウイルスの影響もあって、昨年までは外に出る機会も少なく、コミュニケーションの場が限られていました。

協力してくださる皆様の疑問やお声は、JFSAの活動をより良くするためには必要だと考えています。「近くに来るからたくさん持ってきた」とか「いつもありがとう」という感謝の言葉までかけてくださる方も大勢いました。

同時に私たちでは思い浮かばない、皆様の疑問や不安を知ることができません。中でも多かったのは、持つてくる衣類の汚れ具合についての質問です。自分では許容範囲の汚れだけど、寄付しても良いのかわからない。そういった場合は「誰かにあげることが出来る程度のもの」ということを基準に考えてもらおうと、判断しやすいかもしれません。

イベントに持つてきてくださった皆様、声をかけてくれた協力団体の方々にはこの場を借りて改めて感謝いたします。

東葛センター事務局 佐々木貴弘



23区南生活クラブ「30周年記念マルシェ」



生活クラブ埼玉「再エネ・主エネフェア」



今後も協力団体のイベントや各地の様々なイベントで回収を予定しています  
イベント回収はJFSA ホームページでもご紹介しています ぜひごらんください！



←イベント回収企画のQRコード

■□2024年度(2024年10月～2025年9月)の正会員・支援メンバーを募集しています

NPO 法人 JFSA の会員は次の2種類です。

1. 会員(正会員) この法人の目的に賛同して入会した個人または団体
2. 支援メンバー この法人の目的に賛同し、賛助の意思を持つ個人または団体

【2023年度 正会員 個人:167名・団体11 / 支援メンバー 個人:1160名・団体8】

●年会費(10月～翌年9月末)

個人:会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円

団体:会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

●会費振込み口座(郵便振替)

番号:00160-7-444198 口座名:JFSA

※活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。通信欄に「寄付」とお書き添え下さい。

会員・支援メンバーの方には、会報(年3回)、回収のお知らせ(年3回)、サポーターグッズ(年1回)をお送りします。正会員の方には総会議案書(年1回)もお届けします。

◆JFSAの会報のバックナンバーをご覧いただけます◆

ホームページのトップページ中央

「JFSAのニュースレター(会報)」より

お進みください。ご希望の方には郵送もできます。

◆会報についての感想やご意見をお気軽にお寄せください◆

JFSA までメール・お手紙でお送りください。

jfsa@f3.dion.ne.jp



こちらのQRコードを読み取っていただくとメール作成画面になります